

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 3月22日

【評価実施概要】

事業所番号	3670101652
法人名	社会福祉法人 すだち会
事業所名	すだち会グループホーム
所在地	徳島県徳島市大原町余慶71-2 (電話) 088-663-5751

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成20年 2月 20日

【情報提供票より】(平成20年2月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 9月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	15 人 常勤 14人, 非常勤 1人, 常勤換算 ユニット① 6.75人, ユニット② 9人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,900 円	その他の経費(月額)	光熱水費6,000円, その他実費
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		900 円

(4) 利用者の概要(2月10日現在)

利用者人数	17 名	男性	6 名	女性	11 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.8 歳	最低	78 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	リハビリテーション大神子病院 ・うやま歯科医院
---------	-------------------------

徳島県 すだち会グループホーム 1

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅街に位置しており、田園と緑に囲まれた自然色豊かな土地柄にある。ホームは、昔からある老人クラブの会長さんたちから、清掃奉仕活動や廃品回収などの町内会活動について声かけしてもらったり、近隣にあるコミュニティセンターの行事案内などをこまめに情報提供してもらったりと、地域との交流が図られている。職員はほとんど入れ替わりがなく、利用者が落ち着いた雰囲気でご過ごしている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では改善の指摘がなく、利用者がその人らしい暮らしを続けるための日々の取り組みや職員の人材育成など、質の高い支援が行われている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価に対しては、職員間で話し合いを行い、意見を聞き取った上で作成し、全員が参加した取り組みができています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、利用者家族、地域住民代表、市担当者、地域包括支援センター職員、特養施設長等で構成され、2ヶ月に1回開催されている。会議では運営状況を報告し、各参加者にホームの理解を深めてもらう努力をされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	長年の付き合いの中で、家族とも親しく何でも言い合える関係が築かれている。その中で、不満や苦情等を聞き出せ、早期に対応していることで、信頼関係が良好に保たれている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ごみの収集や年に2~3回行われる様々な町内会行事に積極的に参加ができています。

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念はホームの見やすいところに掲示できている。毎朝のミーティングで唱和し意識付けに努めているが、地域密着型サービスとしての理念とはなっていない。	○	事業所独自の地域密着型サービスとしての理念を作ることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	従来の理念は、毎朝唱和し3ヶ月に1回のミーティングで確認の話し合いが行われている。しかし、地域密着型サービスとしての理念は作られていない。	○	毎朝の唱和と3ヶ月に1回の話し合いに加え、さらに地域密着型サービスとしての理念を作成することが望まれる。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校の廃品回収や地域の清掃活動などに積極的に参加されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年の評価結果は職員で確認しあい、次年度の取り組み事項に活かせるようミーティングを開いている。また評価について、職員一人ひとりからの意見を聞き、全員で自己評価ごとの、改善するべき点を確認しあっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者家族、地域住民代表、市担当者、地域包括支援センター職員、特養施設長等で構成され、2ヶ月に1回開催されている。会議では運営状況を報告し、各参加者にホームの理解を深めてもらう努力をされている。しかし、ホームでの生活状況の報告にとどまっている。	○	ホームからの一方的な情報提供だけでなく実践に活かせるような意見を出してもらおう等、参加者がお互いに意見交換できる仕組み作りが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの地区担当職員は、運営推進会議のメンバーとして参加しており、市町村との連携の橋渡し役になっているが、それ以外に市町村担当者との直接的な連携の機会が設けられていない。	○	介護保険更新手続きやその他手続きに市役所へ足を運んだ時などに、窓口で近況報告する機会をとり、ホーム運営についての意見交換をするなど、連携が図れるような取り組みが期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りを定期的に発刊し、家族に対してホームでの全体的な生活の様子を知らせているが、個々の情報提供はできていない。	○	担当制の仕組みを作るなど、一人ひとりの暮らしぶりや健康状態などの情報が綿密に発信でき、互いの意思疎通が図れるような取り組みが期待される。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	長年のつきあいの中で、家族とも親しく何でも言い合える関係が築かれている。その中で不満や苦情を聞きだせ、早期に対応していることで、信頼関係が良好に保たれている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1年前に管理者が定年退職したほかは、職員の入れ替わりはほとんどなく、入居者に不安を与えるような機会は少ない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の定期職員研修会に交代で参加し、職員が研修できる機会を提供し、学ぶ姿勢がある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内のグループホーム管理者の集まりには毎回参加しており、それぞれの意見交換ができています。また、他のホームとお互いに、見学の行き来ができており、交流する場には積極的に参加できています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	一人ひとりが納得したサービスが受けられるよう、はじめは見学や体験入居などで、本人が無理なくホームでの生活に馴染めるような支援ができています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家庭菜園の作業では、経験豊富な利用者からの知識を取り入れるなど、人生の先輩から様々な点で学んだり、支えあう機会をつくっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活への思いや希望の把握に努め、一人ひとりの介護計画のなかで支援に反映できるよう工夫している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	3ヶ月で全員の見直しができるよう毎月1回のケース会議を開催し、個別の課題分析と評価を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度の計画見直しができおり、新しい課題が生じた場合は家族に相談してもらい、その時点での詳細な評価見直しに努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家庭菜園や日々の生活の中での調理の手伝い、配膳の手伝い、壁面の係などの役割を設定し地道に個々の能力を活かした取り組みができています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の要望に応じた病院をかかりつけ医として、受診の支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまで終末期のケースがなく方針を共有するまでに至っていない。今後取り組むための計画段階にある。	○	重度化や終末期に向けた方針について利用者、家族、職員など関係者で話し合い共有されたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや対応等の場面において、一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した取り組みができています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間等の基本的に決められた生活パターンのおかげで、一人ひとりの希望に沿った散歩の支援など、その人らしい暮らしが支援できるよう配慮されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事については、普段の会話の中から利用者の好みを把握し、話し合いながら献立を立てている。また調理や配膳には利用者も参加している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は夜間は希望者がいないためほとんどが日中に実施している。時間帯は利用者が入りたい時間に実施しており、常に見守りの支援がされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりに何かの役割がある。日めくり係や食事係(調理係・配膳係)、菜園係、掃除係、ごみの袋を新聞紙で折る係など、その人によって得意とする分野の役割があり、楽しめている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの散歩だけでなく、買い物や通院、またお墓参りなど、外出できる機会を設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	住宅街にあるため、夜間は、安全性を考慮した上で玄関を施錠しているが、日中は、施錠していない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、自主訓練と法人全体の消防署指導による訓練を実施できており、記録も整備されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体施設の栄養士が作成した献立を参考に栄養バランスに配慮した食事を提供している。食事摂取量や水分摂取量、口腔ケア、排せつ等について毎回確認、支援し、記録も残している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂にテレビや団欒できる空間があり、利用者が自然と集まれる場となり、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	たんすや湯のみ、テレビなど、本人が自宅で使っていたものを持ち込んでいる。中には仏壇を持ち込んで供養するなど、使い慣れたものや好みのもを活かして、家庭的な雰囲気の中で過ごせるような工夫をしている。		